

# 生徒教養講座

5月28日(月)5・6限目

講師 本間正人 氏

京都造形芸術大学副学長



演題「自ら学ぶ 可能性をひらく」



本間先生のお話を聴きながら、自らの「学び方」「生き方」について考える生徒の姿が印象的でした。



生徒代表の謝辞



講演会終了後に質問する生徒

## 生徒教養講座 生徒の感想(抜粋)

今まで、「できないから無理」と言って諦めることが多かったけど、やってみれば成功するかもしれないし、やらないままだと出来ないままだと改めて思いました。また、3種類の活動をして、英語でのしりとりは、私は英語はできる方かなと思っていただけ、いざやってみると思いつかなくて、わからない、わからないばかり言って他人から助けてもらうばかりでした。これからは、やってみて出来なかったら、失敗ではなく未成功だと思って、勉強、部活などに励みたいです。自分の可能性をどんどん伸ばしていきたいと思いました。

私が、本間先生のお話で特に印象に残っていることは、「人間は学ぶ存在」であり、学びは楽しいものである、ということです。私はデザイン科として、今まで数多くの実習、課題を経験してきました。「絵を描くことが好き」という思いでこの学校に入学しましたが、不器用で頭のかたい私は、実習で行き詰まるたびに「私には、やはりデザインは向いていないのではないか」と思い悩むことがありました。それでも、私を幾度となく立ち直らせてくれたのは、今まで生きてきた中での「成功・達成の記憶」でした。「何でも、やってみなければわからない。苦手と決めつけてしまうのはもったいない」そんな本間先生の言葉が、私の心に強く響きました。先生のおかげで、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。本日は本当にありがとうございました。

小さい頃に「ヒーローになりたい」と言っていた自分の夢を体現したような本間先生の今回の話しに、自分自身で無理だと決めつけていた挑戦する心に、大きな勇気をいただきました。今、自分が受験を控えている中で、とても無謀で、先生からも「変えた方がいい」といわれたことでも、自分のために、自分が社会に出て本当にしたいこと、全力で取り組みたいことに進むための第一歩を、今回の本間先生の話の中に見つけ出すことが、自分なりには出来たと思います。自分が本当にしたいことを積極的に発言したり、行動に移したり出来ない自分でも「ヒーローになる可能性は誰にでもある」。その一言で、悩みや自分自身の嫌いなところを打ち破る方法と、そのための心持ちを「学習学」によってご教授してくださった本間先生に、とてもあこがれを持ちました。

私は将来、小学校教師になりたいと考えています。だから、先生のお話の中にもあったように、おもしろく楽しいことは印象に残るので、先生のような、楽しくて、聞き手を引きつける話し方ができるようになりたいです。「最終学歴」を「最新学習歴」に変えようという話しは、とても印象に残りました。人間は毎日、様々なことを学習しながら生きていると思います。だから、学校で学ぶことだけの学歴ではなく、日々の学習を大切にしたいです。学校を卒業したから「終わり」ではなく、学校を卒業してからも、また新しい「始まり」だと思いました。